

選ばれるまち。いなべ、いなべ。



INABE BRAND 2025

CHECK!

いなべ市の魅力的なモノ、
コト、行政サービスをご紹介します。



三重県いなべ市

THIS IS INABE BRAND

選ばれるまち。いなべ、いなべ。



この冊子は、これまでの活動をまとめたものです。既に全国的な行政サービスとして普及したものも含まれます。



【表紙の写真】いなべ阿下喜ベース（令和6年4月OPEN）

15年続いた阿下喜温泉あじさいの湯が、温泉・サウナ・宿泊・食事からなる温泉複合施設『いなべ阿下喜ベース』に生まれ変わりました。

「いなべ阿下喜ベース」は『自然と健康』をコンセプトに、いなべの自然資源を取り入れて、キャンプや登山などのアウトドア、阿下喜商店街の街歩き、健康につながる体験の提供と観光客の市内周遊の拠点として展開していきます。



INNERBAY

いなべブランドロゴ

INABEのIとBの文字をモチーフに、人と人とが支え合う姿と、青は豊富な水が流れる員弁川、オレンジは躍動する市民の活力、緑は自然豊かな大地を表現しています。

THIS IS INABE BRAND

選ばれるまち。
いなな、いなべ。

Contents

いなべブランドとは 6

既存ブランド事業 10

- Linkでつなげよう 市民の輪 11
- Webを活用したクロスコミュニケーション 12
- まちづくりの拠点施設 にぎわいの森 13
- 美しい水環境の創出 14
- 地域のHERO消防団 15
- ICTで学びをサポート 16
- 9年間の学びと育ちを見据えた教育を 17
- 全国初！楽器を寄附するふるさと納税 18
- 日本航空ふるさと応援隊 19
- 小学校温水プール水泳事業 20
- 保育と教育の共鳴、共創 21
- 地域で見守る子どもの成長 22
- ふるさとの川にすむネコギギを守ろう 23
- プールで育む子どもの元気～安全と笑顔～ 24
- いなべの豊かな自然を学ぼう 25

Contents

● ママ元気 赤ちゃんすくすく	26
● 検診、発見、元気なからだ	27
● いなべげんき応援あぶり「いなべる」	28
● どこでも子育て支援！	29
● 生きる力をつなげるチャイルドサポート	30
● つながり、支える、こどもの育ち	31
● 自然保育で「生き抜く力」を育む	32
● 「からだ」も「地域」もゲンキに！～元気リーダー大活躍～	33
● 住み慣れた地域で安心した生活を	34
● レインボーフラッグが掲げられる社会に！	35
● 「いなべの里の蕎麦」全国への挑戦	36
● 青川の清い流れと緑で・・・元気注入！	37
● 農業公園発！スローライフとロハスな暮らし	38
● 宇賀溪キャンプ場が日本初の“Hygge”をテーマにした アウトドアフィールドへ！	39
● 世界のプロサイクリストが集うまち いなべ	40
● 先進的文書管理「ファイリングシステム」	41
● 納税意識の高いまち いなべ	42

終了したブランド事業	43
------------------	----

いなべ市について	48
----------------	----

THIS IS INABE BRAND

いなべ
ブランド
とは

いなべブランドとは

いなべ市では、いなべ市総合計画で掲げる「住んでいーな！来ていーな！活力創生のまち いなべ」の実現に向けて、いなべ市民やいなべ市を訪れた人に「いなべ市は本当にいーな！」と実感していただけるように、日々、行政サービスの品質向上に向けて創意工夫（挑戦）を行っています。

現在、少子高齢化や人口減少の進行、大規模災害の発生など、社会全体として、激しく変化する潮流時代にあります。このような時代において、安心して住み続けられるまちづくりを進めるためには、市の職員一人一人が社会の実状を見極め、最善の行政サービスを提供していく必要があります。

いなべ市は、高水準で市として誇れる行政サービスを「いなべブランド」と称し、職員全員がこのいなべブランドの認定※を目指し、業務改善に取り組んでいます。

この職員の業務改善への挑戦によって生まれたいなべブランドを本冊子にまとめ、いなべの強みとして情報発信していくことで、効果的に市民の満足度及び市内外のいなべ市に対するイメージ向上を図り、高い評価をいただくことで、更なる業務改善意識の醸成に繋がっています。

いなべブランドを創出することで生まれたこの好循環により、いなべの魅力を創り・育てていき、まちづくりを行っていきます。

※いなべブランドの認定

いなべブランドは、全ての分野の行政サービスにおいて、市として誇れる事業、先駆的な事業、全国等で表彰を受けたもの等をピックアップし、その行政サービスを市の各担当部の代表が審査し、客観的な視点において、基準を満たした行政サービスをいなべブランドとしています。



確立イメージ図



品質の向上

いなべブランドは、市職員の業務改善への挑戦により生まれた、高水準で市として誇れる行政サービスです。いなべブランドの認定を目指すことで、品質の高い行政サービスを創造しています。

満足度の向上

いなべブランドを創造し、行政サービスの質を充実させていくことで、市民満足度の向上を図ります。

イメージ向上

いなべブランドを本冊子等にまとめ、情報発信を行い、いなべの強みを効率的、効果的に伝えることで、イメージ向上を図ります。

住んでいーな！来ていーな！
活力創生のまち いなべ

いなべブランドの推進

地域ニーズにあった高水準な行政サービスを創造していくためにいなべブランドでは、次の2つの視点を取り入れています。

グリーンクリエイティブいなべ

グリーンクリエイティブいなべとは、いなべの豊かな自然、里山、農産物などの地域資源をグリーンと定義し、都会的なもの（選ばれるもの）に磨き上げ、人々を魅了する創造活動です。

このグリーンクリエイティブいなべの理念を基に業務改善を行い、いなべブランドを創造していくことで、いなべ市の特色を活かしたまちづくりを行っていきます。



SDGs

SDGsとは、平成27年9月の国連サミットにおいて、環境・経済・社会の3側面の調和から持続可能な開発を進めるため、令和12年をゴールとして、達成すべき17の開発目標などを定めたものです。

少子高齢化や人口減少の進行、大規模災害の発生などの大きく変革するこの時代の中で、いなべ市では、SDGsを推進した持続可能なまちづくりを進めています。

SDGsの視点を取り入れた業務改善を行い、いなべブランドを創造していくことで、持続可能なまちづくりを行っていきます。



THIS IS INABE BRAND

既存ブランド 事業



Link でつなげよう 市民の輪

情報誌発行事業

事業開始年月日 平成15年12月1日

こんなところが
“いなべブランド”

高齢化の進行、外国人の割合増加などにより情報発信におけるダイバーシティの確立は必要になってきます。

「いなべ市情報誌Link」では、ユニバーサルデザインフォントを導入し、高齢者や弱視の人にも伝わりやすくしています。また、日本語コンテンツを9言語へ自動翻訳する機能を搭載した多言語デジタルアプリも導入し、外国語での表記や読み上げにも対応することで、外国人への情報発信も強化しています。

事業概要

人口減少の進行等、厳しい社会環境の変化に対応していくためには、市民一人一人がまちづくりに理解、関心を持ち、参画を促していく必要があります。いなべ市では、市民に市政への関心を持ってもらえるように、市の広報ツールとして、広報紙を発行しています。

いなべ市の広報紙は、平成15年12月の合併以来、きずな・輪・つながりを意味した「Link」という愛称で、毎月1回約1万3千部の発行を続けています。

編集作業は、外部企業へ委託するのではなく、市民に近く、地域の状況を肌で感じている市の職員が行い、リアルな地域の情報や複雑な制度による行政サービスを分かりやすく伝えるため、日々、改善意識を持って作成しています。

○「いなべ市情報誌Link」の特徴

思わず手に取ってしまう表紙のデザイン、次のページをめくらずにはいられない、最後まで読ませてし

まう「特集」、必要な情報を分かりやすく提供する「PickUp」と「くらしの情報」コーナー等、コーナーごとにメリハリをつけ、“伝わる広報”を目指しています。

○若者のまちづくり参画促進

若者のまちづくりへの参画意識を醸成するための取り組みの一環として、令和元年に、地元の高校と協働で表紙のロゴデザインのリニューアルを行いました。

○ユニバーサルデザインフォントの使用

誰にでも読みやすい広報紙を目指して、ユニバーサルデザインフォントを使用しています。

○Web 媒体の活用

発行に合わせてインターネットでも見られるように、市のホームページに掲載しているほか、多言語・音声読み上げ機能を備えたスマートフォンアプリ「カタログポケット」を導入し、より多くの人に情報が届くよう取り組みを進めています。



表紙



特集



いきいきマイタウン



わたしのいなべ暮らし

評価・
マスコミ
紹介等

三重県広報コンクール
令和4年度 広報誌部門、一枚写真部門 入選
令和5年度 広報紙部門、組み写真部門 特選
一枚写真部門 入選
令和6年度 広報誌部門、一枚写真部門、
組み写真部門 入選

お問合せ

企画部 広報秘書課
電話 0594-86-7740
FAX 0594-86-7857
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



Web を活用した クロスコミュニケーション

ホームページ事業（映像配信）

事業開始年月日 平成19年10月1日

こんなところが
“いなべブランド”

動画投稿サイト「YouTube」を活用することで、ページ管理に手間をかけることなく、地域情報の発信を行っています。YouTube を活用した映像配信の取り組みは全国で2番目、自治体ホームページとの体系的な連携は全国初の取り組みであり、地域ニーズを把握し、多くの人になべの魅力を届けられるよう日々、業務に取り組んでいます。

近年では、「Instagram」や「X（旧 Twitter）」を活用したクロスコミュニケーションによる情報発信にも努めています。

事業概要

情報通信技術（ICT）の進歩に伴う高度情勢化、デジタル社会の進展により、市民の情報取得の方法も多様化しており、それに対応した情報発信をしていく必要があります。特に若い人は SNS や映像配信など Web 媒体による情報収集を行っています。いなべ市では、市民ニーズにあった情報発信を行い、老若男女すべての人に市政への関心を持ってもらえるように、ツールの一つとして、YouTube による映像配信を行っています。

YouTube には、テレビ放送によるいなべ市の情報発信番組「いなべ10」のほか、いなべ市 PR 関連など、毎月10本程度の動画を配信しています。この豊富な動画の中から、視聴者が望む情報をす

ばやくキャッチできるようにカテゴリーを分けるなど、工夫を凝らしています。

いなべ市のホームページでは、YouTube に投稿した最新映像をはじめ、これまで投稿された映像のキャプチャ画像を表示させ、ホームページ、YouTube 双方からのアクセスを可能にすることで、効果的な広報を行っています。

また、Instagram では、「#いなべ探し」とタグをつけ、いなべの魅力を伝え、X（旧 Twitter）ではイベント情報だけでなく、「いなべ市情報誌 Link」とも連携したクロスコミュニケーションを図っています。



いなべ市ホームページ



YouTube サイトのいなべ市チャンネル

評価・
マスコミ
紹介等

・三重県広報コンクール映像部門
令和2年度 入選
令和4年度 入選

お問合せ

企画部 広報秘書課
電話 0594-86-7740
FAX 0594-86-7857
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



まちづくりの拠点施設 にぎわいの森

グリーンクリエイティブいなべ事業

事業開始年月日 令和元年5月18日

こんなところが
“いなべブランド”

行政によるにぎわいの森のようなまちづくりの拠点整備の事例は、全国的にも非常に珍しく、多くの方からお問合せ、視察等を受けています。

グリーンクリエイティブいなべ（GCI）の理念による一歩先を行ったまちづくりを行うことでいなべ市の魅力発信、愛着醸成に繋げ、農業振興や生業・就農促進、商業・観光振興、市民協働の促進などの地域課題を相乗的に解決しています。

事業概要

都市部に流出する若者が「いなべ」を選び定住するためには、従来の行政サービスの向上・改善活動以外に、若者が魅力と可能性を感じられる場（仕事や生活を楽しむ生活産業など）を創出する必要があります。

いなべ市は、GCI をキャッチフレーズに、市の強みを活かし、特に若者にとって魅力あるまちづくり、都市住民を惹きつけるまちづくりプロジェクトを平成27年度から始めました。この事業では、農と食やアウトドアなどいなべの資源を「グリーン」と定義し、若者や都市住民を魅了するものに磨き上げ、市に新たな人の流れをつくることを目的としています。また、地域資源を素材にいなべで起業・創業できる人を発掘し、サポートする生業促進を行い、地域産業を創出しようとするものです。

このGCIの理念に基づいたまちづくりの拠点として、令和元年5月ににぎわいの森を整備しました。にぎわいの森は、単なる誘客のための商業施設ではなく、農業振興や生業・就農促進、商業・観光振興、

市民協働の促進など、まちづくり、ひとづくりの拠点として位置づけられています。

にぎわいの森には、農と食の分野において、業界屈指の5つの飲食店と1つのアンテナショップがあります。いずれの店舗もGCIの理念に共感し、出店された方々です。野菜やお米等の地元産品を活かした独自の商品開発や提供を行い、いなべの品質の良い食材に付加価値をつけることで、農作物の販路拡大等による地域経済循環の促進を図っています。この事業は、地域雇用の創出にも繋がっており、いなべ市では、この6店舗を移住・生業のモデルケースとして紹介することで、いなべでのライフスタイルの紹介や魅力発信から移住・生業の創出に繋げています。

またにぎわいの森では、市民協働のまちづくりを進めるため、様々な取り組みを行っています。市民参画イベントの実施やまちづくりについて語り合える場を創出し、地域内交流やまちづくりへの参画意識の醸成を図っています。



にぎわいの森



イベントの様子



にぎわいの森のお店



にぎわいの森で提供される地域食材を使った料理

評価・
マスコミ
紹介等

・NHK津放送局「まるっと！みえ」(R4.6.10/R4.12.8)
・ぴあMOOK中部
「森とカフェと緑のレストラン東海版」掲載(R4.6.30)
「緑と水辺のごちそうドライブ東海版」掲載(R5.8.23)
・「東海ウォーカー」掲載(R6.2.28)
・中京テレビ「あさドレ♪」(R6.3.28)

お問合せ

農林商工部 商工観光課
電話 0594-86-7833
FAX 0594-86-7869
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



美しい水環境の創出

下水道施設整備事業、農業集落排水施設整備事業 他 I 事業

事業開始年月日

いなべ市公共下水道事業 平成7年4月1日

農業集落排水事業 平成3年4月1日

こんなところが
“いなべブランド”

汚水処理人口普及率は、県内の市で1位、三重県の平均89%を大きく上回る99.5%と非常に高い数値を誇ります。高い普及率が示すとおり、令和元年に行われたまちづくり市民満足度調査（一般市民調査）において、まちづくり満足度の項目で、下水道の整備が一番高い結果となっています。快適で衛生的な生活環境が整備され、河川等の自然環境保全や住みよいまちづくりに貢献しています。

事業概要

いなべ市は、公共下水道区域、農業集落排水区域及びそれ以外の区域に分けて、生活排水処理を行っています。

公共下水道区域は、員弁町、大安町、北勢町（阿下喜地区、治田地区、山郷地区の一部）、藤原町（東藤原地区、西藤原地区、白瀬地区、中里地区の一部）を桑名市、四日市市等の北勢7市町が運営している北勢沿岸流域下水道として統合汚水処理を行っています。

農業集落排水区域は、北勢町内の十社地区・山郷地区の一部と藤原町内の員弁川左岸区域（立田地区、中里地区の一部）に9箇所の処理施設があり、汚水処理を行っています。

それ以外の区域は、合併浄化槽による汚染処理を行っています。

この結果、汚水処理人口普及率は、他自治体と比

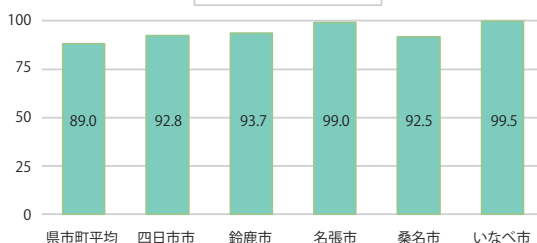
較しても非常に高く、快適で衛生的な生活環境が整備されています。

○高普及率 自然豊かなまちづくりに貢献

この汚水処理環境を整えることにより、河川等の自然環境の保全に繋がっており、ホタルの生息が非常に多く確認できるようになっています。

この自然環境への寄与から、令和元年に行われたまちづくり市民満足度調査（一般市民調査）において、住みやすいと感じる理由の第1位に「自然に恵まれているから」の項目があがっており、住みよいまちづくりに貢献しています。

汚水処理人口普及率（%）



三重県：みえの下水道 2023-2024 より

評価・
マスコミ
紹介等

・汚水処理人口普及率 県内の市で1位

お問合せ

水道部 下水道課
電話 0594-72-3515
FAX 0594-72-3748
住所 いなべ市北勢町阿下喜2633



地域のHERO消防団

消防団事業

事業開始年月日 平成22年7月25日

こんなところが
“いなべブランド”

消防団は、地域にとって欠かせない存在であり、いなべ市では、地元企業、地域、行政が協力し、人材発掘に努めています。その結果、消防団員の充足率は、96.6%であり、全国平均 82.2%に対して非常に高い数値となっています。また地域と連携し防災訓練等において、防災啓発を行っています。

これらの取り組みを進めることで、市民の防災意識の醸成に繋げ、安心・安全で住み良いまちづくりを行っています。

事業概要

近年、地震、台風、集中豪雨など多くの災害が発生する中で、地域を巻き込んだ防災対策を講じる必要があります。安心・安全に暮らせるよう、消防団を設置し、地域防災力の向上を図っています。

消防団は、消防署と異なり、地域住民が他に仕事を持ちながら「自分たちのまちは自分たちで守る」という精神に基づき、地域ごとに設置されており、地域住民の生命と財産を守るために活動をしています。

地震、台風などの自然災害のみならず、火災、山岳救助、行方不明者の搜索などの人的災害にも出動し、市民の安心と安全を守るために昼夜問わず活動しています。いつ起きるかわからない災害に備え日々訓練を行い、地域の消防力や防災力を向上させるとともに、市民への防災訓練や啓発を実施しています。

いなべ市としては、この消防団の活動が円滑に行えるように、次の取り組みを行っています。

○常備消防との連携

防災機能の核である消防本部を充実させ、消防団と連携を図ることで、相乗的に防災力の向上に繋がっています。

○地域防災環境の整備

活動の拠点である消防団詰所や消防車両、消防機器等の修繕、管理を担い、いつでも万全な体制で出動できるようサポートしています。

○消防団員の確保

消防団員のサラリーマン化が進み、ほとんどの団員は企業に勤めながら、活動をしています。全国的に適正な消防団員の確保が難しくなっており、いなべ市では消防団員の確保を図るために、地元企業への協力要請等を行っています。



全国操法大会で健闘するいなべ市消防団

評価・
マスコミ
紹介等

お問合せ

総務部 防災課
電話 0594-86-7746
FAX 0594-86-7859
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



ICT で学びをサポート

学校 ICT 活用事業

事業開始年月日 平成28年4月1日

こんなところが
“いなべブランド”

タブレット端末の小中学校全生徒分の配備による機器の充実、ICT 機器活用支援員による専門家の配置等、県内において、いち早く ICT 教育に取り組んでいます。

IT、ICT 技術の格差は正だけではなく、主体性や基礎学力向上等の生徒の力を伸ばすため、教員一人一人が研究、授業内容の改善を行っています。

事業概要

近年、IT、ICT 技術が進む中、地域や学校、家庭環境による IT 格差への対応が必要となっています。格差を生むことなく、誰もが IT、ICT 技術を扱えるよう、小学校の段階から ICT の授業を行っています。

小中学校全クラスに電子黒板を整備すると共に 1人1台タブレット端末を配備しています。また授業を円滑に行えるように ICT 機器活用支援員が定期的に学校に訪問し、機器のメンテナンスのほか、授業に入り機器活用等の支援を行っています。

○自分の殻を破り、積極的に自己表現をする子どもたち

この ICT 教育の環境を整備することで、子どもの表現の幅が広がり、思考の深化や学習意欲により影響を与えています。

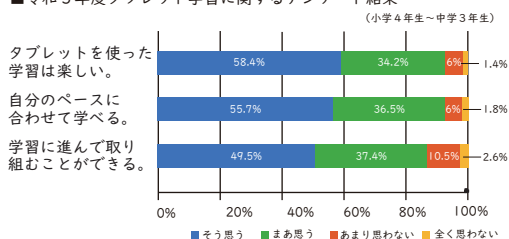
挙手をして発表する時には、緊張して言葉が出ない子どもも、タブレット端末や電子黒板に書き込んでから発表する時は、内容を目で確認しながら話せるため、抵抗なく自分の考えを述べられるようになりました。自分の意見をみんなに共有し

てもらえる喜びが、子どもの学びへの意欲を高めています。

○タブレット端末を活用した反復学習で基礎学力の定着

基礎学力の定着にタブレット端末を活用しています。基礎知識の習得は、子どもが集中して取り組めるようクイズやパズル形式のアプリケーションを利用しています。また漢字や算数等の反復学習は、過去の単元や前の学年の学習内容に戻って、取り組むことができ、生徒が自分のつまづきに合った学習に取り組めるようになっています。

■令和5年度タブレット学習に関するアンケート結果



タブレットで伝え合い



電子黒板とタブレットで学び合い



タブレットで個別学習



ICT 機器活用支援員がサポート

評価・
マスコミ
紹介等

【行政視察受入実績】
南伊勢町(令和5年度)、Apple社(令和6年度)
【雑誌等掲載】
「学校とICT」(令和6年12月)
マイナビニュース(令和6年12月)
Dig-it(令和6年12月)

お問合せ

教育委員会事務局 学校教育課
電話 0594-86-7844
FAX 0594-86-7871
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



9年間の学びと育ちを見据えた教育を

小中一貫教育推進事業

事業開始年月日 平成29年4月1日

こんなところが
「いなべブランド」

小中一貫教育では、学びと育ちに連続性を持たせることで、学習意欲の向上を図るだけでなく、地域への愛着を持ってもらえるよう教育を行っています。

校区ごとに地域の特色を活かした教育方針を立て、実施していくことで、自己有用感を育み、自己実現を図るとともに、地域社会の一員としての自覚を養い、ふるさと「いなべ」を愛する心を育て、働くことや職業についての認識を深め、確かな社会性を身に付け、志を育てています。

事業概要

成長が著しい小中学校の9年間において、児童・生徒の能力を最大限に伸ばすため、一人一人の資質、能力等を各機関が共有し、将来像を統一する必要があります。

いなべ市では、中学校卒業時における目指す子ども像を明確にし、小中学校が一致した方向性のもとで、地域とともに特色ある教育活動を展開するため、小中一貫教育を導入しています。

いなべ市の学校教育目標である「いなべの明日を担う心豊かでたくましい子どもの育成」を実現するために、中学校区（合併前の旧4町）ごとに校区の特色を活かした統一教育目標を掲げ、校区内の小中学校が、一貫性・系統性のある教育活動を展開しています。

北勢、員弁、大安校区では、小中学校の施設が分離する中で一貫教育を行っており、藤原校区では、小中学校の施設が一体となり、実施しています。

〇小中一貫教育グランドデザインとカリキュラムを活用した教育

中学校区ごとに特色ある小中一貫教育を実施するため、中学校区ごとに、中学校区小中一貫教育グランドデザインを作成し、推進の方向性を示しています。

また教科及び領域を系統的に捉えた教科別カリキュラムや教科領域別カリキュラム及び全教育活動を通して実施する未来いなべ科カリキュラムや人権教育カリキュラムを子どもの発達段階を考慮し、義務教育9年間を見通した実践計画の策定をしています。教育方針において、共通認識の中で全ての方が教育に携われる体制づくりを行っています。



山郷小学校 全校集会写真



員弁西小学校 ドリームマップ作成



大安中学校の様子



藤原小中学校 合同避難訓練

評価・
マスコミ
紹介等

【行政視察受入実績】
兵庫県洲本市、愛知県美浜町(R4年度)
鈴鹿市、愛知県飛島村、度会町、愛知県知多郡(R5年度)
福井県若狭町、岐阜県川辺町、松阪市(R6年度)

お問合せ

教育委員会事務局 学校教育課
電話 0594-86-7844
FAX 0594-86-7871
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



全国初！ 楽器を寄附するふるさと納税

楽器寄附受入事業

事業開始年月日 平成30年10月10日

こんなところが
「いなべブランド」

返礼品で注目されるふるさと納税に対して、そもそも寄附とは何かを問いかけた全国初の事例。楽器不足で困る中学校や高校、教育団体と眠ったまま使われていない楽器を持つ人たちを、ふるさと納税が結びつけます。

大切にしてきたモノに思いを込める寄附文化の醸成と感謝の気持ちや楽器を大切に作る心の教育。そして、新たに生まれるつながりを生み出していきます。令和7年1月末現在、98の楽器が市内中学校や高校、教育団体に届けられました。

事業概要

楽器寄附ふるさと納税は、生まれ育ったまちや応援したいまちに寄附をするというふるさと納税の制度を活かし、市立中学校吹奏楽部の慢性的な楽器不足の解消を目的として開始した取り組みです。

この取り組みでは、全国に眠っている使われなくなった楽器を寄附いただき、楽器が不足しているいなべ市の中学校や高校、教育団体へ届けます。寄附を希望する人が、市の専用サイトから申し込むと、市と連携する株式会社マーケットエンタープライズが楽器の査定を行い、査定額に納得していただけた場合、寄附が成立します。楽器は市内の中学校や高校、教育団体へ届けられ、寄附者は査定額に応じて、税金控除が受けられます。

一般的なふるさと納税と違って、返礼品はありません。子ども達からお礼の手紙をお送りするとともに、寄附楽器を使用したコンサートへの招待を行っています。また「感謝の声」として専用サイトでも画像を添えて紹介しています。

また、この制度に共感いただいた自治体からたくさんのお問合せがあったため、平成31年4月から全国的展開が始まりました。令和7年1月末現在、北海道から九州まで、全国で26の地方公共団体が参画されています。

「楽器が足りない」という、市内の学校の困りご

とを解決するだけでなく、自分や家族が大事にしてきた楽器を、想いととも次世代につなげるという新しい寄附文化が醸成されつつあります。



楽器寄附ふるさと納税専用 Web サイト



寄附された楽器と学校の生徒たち

評価・
マスコミ
紹介等

- ・令和2年度ふるさとづくり大賞 地方自治体表彰受賞（R3年1月28日）
- ・KBS京都ラジオ「笑福亭晃瓶ほかほかラジオ」（R2年9月10日）
- ・読売新聞 ジュニアプレス（R3年3月5日）
- ・FM AICHI「DAY DREAM MAGIC」（R3年5月10日）
- ・中日新聞 全国版（R6年9月30日）

お問合せ

1 農林商工部 商工観光課
電話 0594-86-7833
FAX 0594-86-7869
2 教育委員会事務局 学校教育課
電話 0594-86-7844
FAX 0594-86-7871
住所(共通)いなべ市北勢町阿下喜31



日本航空ふるさと応援隊

夢・未来プロジェクト 2030 事業

事業開始年月日 令和4年4月1日

こんなところが
「いなべブランド」

単発の講演ではなく、継続的に客室乗務員が学校の授業に参画する活動が、日本航空の役員会において、「いなべ市モデル」と紹介されるなど、全国でも例のない唯一の事業を展開しています。

児童生徒にとっても、客室乗務員の温かい人柄や素敵な生き方に直接触れることができる貴重な機会となっています。

事業概要

人・社会・世界、そして未来へとつながる「ホスピタリティ」の精神を客室乗務員のキャリアや対人コミュニケーション技術等から学び、次代を担う児童生徒が人としての立居振舞を身につける機会にすると共に SDGs の取組やキャリア教育を推進することを目的としています。

事業内容としては、以下のような取組を実施しています。

- (1) 客室乗務員による授業（対面での学習活動）
- (2) 4種類の講座から実施時期、実施学年、実施講座等学校の要望に応じて実施
 - 講座 A 「客室乗務員お仕事講座」
 - 講座 B 「マナー講座」
 - 講座 C 「情報伝達：プラス受信・発信」
 - 講座 D 「SDGs の取組」

◎ 中学校においては、どの講座にも「CA のキャリアに関する語り」を内容として加えています。

- (3) 市内全小中学校において、各学校が年間2回程度、合計30日程を実施しています。

- (4) 授業終盤の「質問コーナー」では、子どもの興味関心がある質問に絡んで、子ども達とCAさん

とのやり取りが、とてもほのぼのとして楽しい雰囲気、互いの温かなつながりを感じます。

< 4年間（令和3～6年度）の実績記録 >

○授業日数：124日 ○授業回数：366回

○受講児童生徒人数（欠席者数含む）：10,647人

○授業者人数（客室乗務員）：のべ75人（48人）

この事業を通して子ども達は、「素敵な出会い」「価値ある体験」「有意義な時間」の貴重な経験をして、豊かな学び、温かな心を育んでいます。



CA のキャリアの語り



マナー講座（お辞儀体験）



情報伝達講座（手話）



SDGs の取組講座

評価・
マスコミ
紹介等

TV
・CTYケーブルニュース(令和6年12月)
新聞
・伊勢新聞(令和7年2月)
・中日新聞(令和7年2月)

お問合せ

教育委員会 学校教育課
電話 0594-86-7844
FAX 0594-86-7871
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



小学校温水プール水泳授業

社会体験推進事業

事業開始年月日 令和6年5月7日

こんなところが
「いなべブランド」

令和6年5月から小学校の「温水プール水泳授業」がスタートしました。天候の影響を受けない屋内プールで、教職員とインストラクターが連携・協力して水泳指導を行うことによって、安心・安全な学習環境を確保し、より教育効果の高い授業を実現しています。温水プール水泳授業は、子どもたちの泳ぐことへの意欲と自信を高めるとともに、学校プールの管理に伴う負担が無くなることで教職員の働き方改革にもつながっています。

事業概要

近年、地球沸騰化と言われるほどの気温上昇の影響を受け、屋外プールでの水泳授業を実施できない日が増加傾向にありました。このような状況から、子どもたちを熱中症の危険から守り、天候に左右されることなく安定的に授業回数を確保できる学習環境の必要性が、年々高まってきていました。

そこで、令和6年5月からスタートしたのが、温水プールを活用した小学校の水泳授業です。

室温と水温が一定に保たれた屋内のプールで、教職員とインストラクターが共作したカリキュラムに基づきながら、低学年（小1～小3）で5回、高学年（小4～小6）で6回の水泳授業が行われています。指導体制も、児童10名程度につき1名のインストラクターを配置し、習熟度別のコースを設定する等の工夫をして、きめ細やかで専門的な実技指導が受けられるようにしています。

学校から温水プールまでの往復は、スクールバスを活用し、学校ごとに配車計画を立てて送迎しています。

子どもたちからは、「たのしかった」「できなかったことができるようになってうれしい」などの喜びの声が届いており、温水プール水泳授業を通して泳ぐことへの意欲と自信が高まっています。



子どもたちからの喜びの声



開放感のある25m プール



水深の浅いプールも完備



インストラクターによる専門的な技術指導

評価・
マスコミ
紹介等

TV
・CTYケーブルニュース(令和6年5月)
・CBCニュース(令和6年5月)
新聞
・伊勢新聞(令和7年2月)
・中日新聞(令和7年2月)

お問合せ

教育委員会 学校教育課
電話 0594-86-7844
FAX 0594-86-7871
住所 いなべ市北勢町下喜31



保育と教育の共鳴、共創

教育総合研究所事業

事業開始年月日 令和6年4月1日

こんなところが
「いなべブランド」

子どもは乳幼児期から学童期、青年期とそれぞれの発達段階を経て成長します。各段階において途切れない保育や教育をするためには、組織を越えた連携と協働が必要です。

教育総合研究所は、「保育」「教育」「発達支援」を所管する関係機関とともに、発達段階に応じた非認知能力（自己肯定感、好奇心、自制心、協調性、等）向上の取組を推進します。

事業概要

近年、教育の世界では、子どもがより幸せな人生を歩む上で強い影響を与える「非認知能力（好奇心・自制心・協調性・等）」の育成に注目が集まっています。また、非認知能力を育むためには、10歳までの時期が重要であるともわれています。

そこで、教育総合研究所が事務局となり、保育施設を所管する保育課、小中学校を所管する学校教育課、発達に係る相談や支援を実施する発達支援課の3課によるプロジェクト会議を開催し、「非認知能力の向上」と「保育・教育の連携・充実」を重点課題とする取組を進めています。

○自己肯定感の涵養による「非認知能力の向上」

他者との比較や優劣に関係なく、弱点や欠点も含めて自分自身の存在を価値あるものとして受け入れる「基本的自己肯定感」は、あらゆる非認知能力の基盤であると考えます。そこで、保育施設及び小中学校においては、子どもたちが自己の価値を実感できる機会の創出に努めています。

また、この基本的自己肯定感の涵養については、保育士、及び教職員はもとより、子育ての第一義的責任を持つ保護者がその責務を果たすことができるよう社会総がかりの支援が必要です。教育総合研究所は、地域における様々な主体と連携・協働し、子育てに関する学習の機会や必要な情報提供を行っています。

○「架け橋プログラム」実施による園・学校の連携・接続

義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間は生涯にわたる学びや生活の基盤をつくる大切な「架け橋期」と呼ばれています。

この時期の保育・教育の在り方については、保育士と小中学校教職員が連携し、協議を重ねています。特に架け橋期のカリキュラムの開発や教育方法の充実と改善については、円滑な園小接続のポイントでもあり、「架け橋プログラム」として取り組んでいます。



研修会



保育所園児（室外）

評価・
マスコミ
紹介等

お問合せ

教育委員会 学校教育課
電話 0594-86-7844
FAX 0594-86-7871
住所 いなべ市北勢町阿下喜31





地域で見守る子どもの成長

放課後子ども教室事業

事業開始年月日 平成23年4月1日

こんなところが
「いなべブランド」

地域の方が自ら講師、サポーターとなり、様々な学習、スポーツ、文化活動などの体験会を実施することで、子ども同士だけでなく、大人など様々な地域住民と触れ合う機会が創出され、社会性、協調性及び自立性などが育まれています。

この地域のマンパワーを活用し、地域で子どもの成長を見守る取り組みは、全国的に高く評価されており、放課後子ども教室ほくせいは、「地域学校協働活動」推進にかかる文部科学大臣の表彰も受けています。

事業概要

ゲーム遊びなどの普及により集団遊びや仲間との活動経験が乏しい子どもが増加しています。また、地域社会のつながりが希薄になりつつあり、青少年を取り巻く環境の悪化が懸念されています。

この中で、いなべ市では、子どもの社会性、協調性及び自立性の成長を促し、地域コミュニティ強化による地域内教育の促進を図るため、いなべこども活動支援センター、放課後子ども教室ほくせい、員弁西放課後子ども教室の3つの団体に放課後子ども教室事業を委託しています。この事業は、各地域の人々が講師やサポーターとなり、地域資源を活かした様々な体験教室を開催するものです。

子どもたちは、様々なメニューを体験するとともに地域の人たちとの交流を通じて約束事、礼儀作法や社旗のルールを守ることの大切さを学びます。また、これらを通じて、意欲的で自己肯定感の持てる子どもを育成することを目標としています。

学校などの教育機関と連携しながら、休日や夏休みなどの長期休暇に合わせて開かれる短期のオープンスクールと1年を通じて1つのテーマにじっくり取り組むレギュラスクールを実施しています。

令和3年度利用者数（延べ人数）

	レギュラスクール	オープンスクール	合計
いなべこども活動支援センター	1,915人	1,091人	3,006人
放課後子ども教室ほくせい	3,545人	1,988人	5,533人
いなべ市立員弁西小学校西っ子夢くらぶ	830人		830人



みんなでことよこト



御在所岳に登ろう

評価・
マスコミ
紹介等

お問合せ

教育委員会事務局 生涯学習課
電話 0594-86-7846
FAX 0594-86-7871
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



ふるさとの川にすむ ネコギギを守ろう

国重要文化財等保存活用促進事業（ネコギギ）

事業開始年月日 平成18年4月1日

こんなところが
“いなべブランド”

国指定天然記念物ネコギギと自然豊かな河川の再生に向けて、地域住民、専門家、行政が合意形成を図りながら、次の世代につながる川づくりと地域づくりの取り組みを継続的に進めています。

市内河川で保護したネコギギを家系管理しながら水族館等で繁殖し、飼育下で増殖したネコギギを自然の川へ放流しています。

事業概要

SDGsの視点を取り入れたまちづくりが国際機関において推奨される中で、自然環境の保護の視점에立ったまちづくりを進めることは必要不可欠です。

ネコギギ（ナマズ目ギギ科）は、国指定天然記念物であり、三重県、岐阜県、愛知県の伊勢湾周辺域河川にのみ分布する日本固有の純淡水魚で、清流の象徴といわれています。平成2年以降の調査で員弁川水系のネコギギの生息は危機的な状況になっていることが分かり、生物多様性の保全の一環で、保護、増殖を行っています。

ネコギギ保護増殖の取り組みでは、生息状況調査や生息環境調査及び改善、飼育増殖、試験放流などを行っています。

員弁川水系由来のネコギギを家系管理しながら飼育下で繁殖させています。河川工事等で環境が改善された場所へ、増やしたネコギギを放流しています。そのネコギギが繁殖し、モニタリングで稚魚が見つかります。

ネコギギのことを身近に知っていただくために、いなべ市藤原自然科学館では、ネコギギを水槽展示しています。ネコギギを見ていただくことのできる県内唯一の施設です。

〇地域から広がる保護活動

地域を学ぶ授業の一環として、ネコギギが生息する地域の小学校の総合学習では、ネコギギの授業を行っています。また、県立水産高等学校の2年生が授業でネコギギの学習と繁殖に取り組んでいます。

〇ネコギギ保全シンポジウムを開催

令和5年6月に20年に渡るネコギギ保護の取り組みが評価され、『日本水大賞 環境大臣賞』を受賞しました。受賞を記念し、10月に「ネコギギ保全シンポジウム～ネコギギの保護をとおして ふるさとの未来へつなぐ～」を開催しました。



員弁川水系のネコギギ



十社小学校のネコギギ学習会



ネコギギ保全シンポジウム

評価・
マスコミ
紹介等

公益社団法人日本河川協会
『日本水大賞 環境大臣賞』受賞
TV NHK「まるっと！みえ」「おはよう東海」
ラジオ エフエム三重
新聞 中日新聞（三重版・北勢版）
読売新聞（三重版）
毎日新聞（三重版）

お問合せ

教育委員会事務局 自然学習室
電話 0594-46-8488
FAX 0594-46-4312
住所 いなべ市藤原町市場493-1
藤原文化センター内



プールで育む子どもの元気 ～安全と笑顔～

海洋センター事業

事業開始年月日 平成23年4月1日

こんなところが
“いなべブランド”

幼少期における水難事故対策等による水辺での学習は必要不可欠です。中山間地域で海に面していないいなべ市でも水に親しんでいただけるように、アクアリズム運動教室、水辺の安全教室を開催しています。

中山間地域でも身近に水に触れ、体力の向上や正しい知識を得られる環境を整えているこの取り組みが評価され、B & G財団の海洋センターの管理運営全般評価で特Aを獲得しています。

事業概要

海やプールなどにおける水難事故が多い中で、幼少期の段階から水辺での対処方法を学ぶ機会をつくり、対策を講じていく必要があります。

いなべ市では、水難事故対策と児童の体力向上等を目的に研修、訓練を受けてインストラクターとなった市職員が海洋センター事業として、次の教室を開いています。

○アクアリズム運動教室

子どもたちの体力が低下傾向にある中、保育園児（4歳児、5歳児）を対象に開催しています。プールでの遊びやリズム運動等を通して、体力の向上を図ります。いろいろな動作を習得する能力は、就学前の幼児期にピークを迎え、その時までには運動や遊びなどを体験することは、以後の成長、発達に大きな影響をもたらします。



動物ものまね体操で準備体操



アクアスタディ（ビート板）



宝物拾い



ペットボトル浮游体験



水辺の安全紙芝居



背浮きの練習



落水体験（落ちたらすぐ背浮きの練習）

水に親しみ楽しみながら、多くの体験をするとともに集団の中で、協調性や思いやり、順番を守る等の規律性も育みます。

○水辺の安全教室

体力の向上、水の事故ゼロにするため、市職員（インストラクター）が学校に出向き、実施しています。

“水に近づかない”ことを教えるのではなく、水の安全について正しい知識を学んでいただきます。水辺での活動を楽しいものにするため、いざという時に誰にでもできる対応を伝え、自分の命は自分で守るという自助意識の向上を図っています。

指導内容は、着衣泳、ペットボトル等身近なものでの浮遊体験、ライフジャケット浮遊体験等を行います。

評価・
マスコミ
紹介等

お問合せ

教育委員会事務局 生涯学習課
電話 0594-86-7846
FAX 0594-86-7871
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



いなべの豊かな自然を学ぼう

藤原岳自然科学館自然教室事業

事業開始年月日 平成15年12月1日

こんなところが
「いなべブランド」

藤原岳自然科学館は昭和49年開館、令和6年に50周年を迎えました。その活動の柱の一つが開館時から約50年間続いている藤原岳山麓で開催される自然教室です。自然教室は「いなべ」の自然の素晴らしさを再発見、だれでも気軽にいなべの自然を学べる観察会です。豊かな自然に触れることで、より深く自然を理解できる機会となっています。

事業概要

いなべ市には花の百名山として知られる藤原岳を代表に豊かな自然環境があり、多種多様な生き物が生息しており、市外から数多くの人が訪れます。

三重県内ではいなべ市でしか見ることでできない希少な動植物や岩石などの豊かな自然を学ぶ観察会として、「春の動植物をたずねて」などの自然教室（年間約20回）を開催しています。

また、未来を担う子どもたちのために、昆虫、植物、岩石などの標本づくりの教室、標本の名前を聞く会等を開催し、成果発表の場として自然科学作品展と研究発表会を開催しています。

50年という長い期間続けることによって、かつて自然教室に参加した子どもがやがて大人となり、自分の子どもと一しょに参加するという好循環も生まれています。

自然教室の拠点となっている「自然学習園ふるさとの森」は、令和6年3月に「生物多様性の保全が図られている区域」として環境省の「自然共生サイト」に認定されました。早春にはセツブン

ソウやフクジュソウを見に多くの方が訪れます。

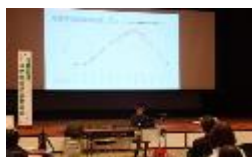
「ふるさとの森」や「屋根のない学校」など、身近なフィールドでの生き物の様子を「いなべの自然みつけ隊」で紹介しています。「いなべの自然みつけ隊」はYouTubeのいなべ市公式チャンネルでご覧いただけます。



ふるさとの森入口



自然教室のようす



児童生徒自然科学研究発表会



ふるさとの森のセツブンソウ

評価・
マスコミ
紹介等

中日新聞
・環境省自然共生サイトに「ふるさとの森」(令和6年度)
朝日新聞・中日新聞
・ふるさとの森のセツブンソウの紹介(令和6年度)
ケーブルNews
・企画展「秋の鳴く虫展」(令和6年度)
NHK まるっと！みえ
・ふるさとの森での昆虫観察(令和5年)

お問合せ

教育委員会事務局 自然学習室
電話 0594-46-8488
FAX 0594-46-4312
住所 いなべ市藤原町市場493-1
藤原文化センター内



ママ元気 赤ちゃんすくすく

母子保健事業

事業開始年月日 平成15年12月1日

こんなところが
“いなべブランド”

赤ちゃんの成長や健康はもちろんのこと、ママへの質問票（EPDS ※）でママの子育てをサポート。下記の表にもあるようにほぼ100%のママと赤ちゃんと保健師が関わっており、県内でも上位の訪問率となっています。

また、保健師を市の職員として配置し、充実した子育てのサポート体制となっています。

※エジンバラ産後うつ病自己調査票

事業概要

近年、核家族の増加等により、気軽に子育ての不安や悩みを相談できる方が身近にいないなど、子育てに不安を抱えるお母さんは増えています。いなべ市では、出産後の子育て不安の解消を図るため、健康や病気に関する専門家である保健師が、乳児（おおむね生後2か月から4か月）のいる全ての家庭を訪問する「こんにちは赤ちゃん訪問事業」を行っています。

訪問した際は、予防接種、母子保健事業（健診・育児相談等）、子育て支援センター、保育園、赤ちゃんの成長に応じた情報を提供します。またご家庭にあった子育ての方法をママと一緒に考えます。

〇何故、赤ちゃん訪問！？

子育ては、初めてでも、2人目でも不安がいっぱいで気づかないうちに産後うつ状態に陥っているこ

とがあります。だからこそ、子育て中のお宅へ訪問し、悩みを積極的にお聞きし、専門的なアドバイスを行い、不安解消のお手伝いをします。

育児不安の強いママや支援の必要なお子様に対しては、訪問で接した保健師が市の各担当課や関係機関と連携し、訪問や電話相談等、成長に応じて継続的に支援しています。

国の施策でも妊娠期から出産後の途切れのない支援が重要視されています。いなべ市の赤ちゃん訪問率は高い値を維持しています。

■ こんにちは赤ちゃん訪問の状況

	対象者	訪問実施	訪問率
R3	329件	285件	86.6%
R4	311件	290件	93.2%
R5	265件	258件	97.4%



赤ちゃんの発達確認



赤ちゃんの身長計測



母子健康手帳の確認

評価・
マスコミ
紹介等

・こんにちは赤ちゃん訪問の訪問率 県内上位

お問合せ

健康こども部 母子保健課
電話 0594-86-7770
FAX 0594-86-7864
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



検診、発見、元気なからだ

健康推進事業

事業開始年月日 平成15年12月1日

こんなところが
“いなべブランド”

市民の皆さんがスムーズにがん検診を受診できるよう独自の取り組みを行っています。初めて受診される方が気軽に受けに来られる環境づくりや忘れずに毎年継続して受診してもらえる工夫など受診者のご意見を聞き、受診環境の改善を日々行っています。

その結果、どの検診においても県内上位の受診率を誇っており、市民の健康増進に繋げています。

事業概要

生活習慣の変化等から、全国的にがんの罹患率、死亡者が増えています。がんの早期発見を図り、いつまでも健康でいられるよう、いなべ市では、6種類のがん検診（胃、肺、大腸、前立腺、乳、子宮）を実施しており、検診車ドック、病院ドック、通常のがん検診の3つの検診環境を整えています。

多種の受診環境を整えると共に受診者の声を聞き、次の改善、工夫を行っています。

○待ち時間の解消

検診場所が混雑しないよう、毎年3月初旬に各種検診申込書を各個人に郵送し、受診希望者数の把握を行い、日程・時間を割り振っています。

○毎年受けてもらう仕組み

本年度に受診した人は、翌年度新たに申請をしな

くても自動的に本年度と同じ検診を受けられるようになっています。（変更のある場合は申請が必要）

○1日で終わらせたい

肺がん検診以外のがん検診は全て同日で受診できるようになっています。

○特定健診やがん検診を一度に受けられる環境

国民健康保険加入者を対象に受診者の負担を減らすため、がん検診と特定健康診査を同時に受診できる人間ドック（総合検診）を実施しています。

○急な日程変更

受診者の都合により日程を変更することができます。

■令和4年度地域保健・健康増進事業報告

	胃がん	肺がん	大腸がん	子宮頸がん	乳がん
いなべ市	14.6%	10.0%	13.1%	28.7%	29.7%
県	8.7%	6.8%	7.7%	18.5%	17.1%
国	6.9%	6.0%	6.9%	15.8%	16.2%



検診に訪れる市民の皆さん



天候に左右されることなく、バスで受診できます

評価・
マスコミ
紹介等

・がん検診受診率 県内上位

お問合せ

健康こども部 健康推進課
電話 0594-86-7824
FAX 0594-86-7864
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



いなべげんき応援あぷり 「いなべる」

健康増進事業

事業開始年月日 令和5年1月1日

こんなところが
“いなべブランド”

若い世代から働く世代に向けての健康づくりが、将来的な健康寿命の延伸、介護予防につながる。特に無関心層をターゲットに、「日常生活の中」において、「楽しみながら」「継続して」「運動を習慣化する」といった健康づくりに取り組めるIT技術を利用した新しい環境づくりを整えることで、市民全体の健康づくりに役立っている。

事業概要

いなべ市では、全世代の効果的な健康づくりに向けて、多様な主体が一体となって取り組む一連の活動「元気みらい都市いなべ」を通じて、“人”と“まち”の「元気づくり」に挑戦しています。

(1) 若い世代や働く世代が健康への気づき、実践につながるきっかけとするために、アプリの普及を行います。

(2) 初年度は健康無関心層へのアプローチとして市内や商業施設のイベント等でアプリの普及啓発を実施しました。また健康に関する測定会や教室、ウォーキングイベント等を開催した。アプリには、歩数や体重、血圧などの健康情報を記録することができる機能があり、個人の健康に関する取り組みへもポイントを付与することで、健康への意識付けを高めることができます。

アプリの登録者数は令和6年12月末時点で6,500人以上（登録者数のうち9割以上が市民）が「いなべる」をダウンロードしています。日常生活の中で、楽しみながら継続し、健康づくりに取り組む環境づくりを目指します。また、貯めたポイントで協力店の地場産品等の抽選会やWAONポイントへの換金を実施することで、健康への意識付けを高めるとともに地域の商業や企業を巻き込んだ健康意識の底上げを目指します。



いなべげんき応援あぷりキャラクター
「いなべる」

評価・
マスコミ
紹介等

お問合せ

健康こども部 健康推進課
電話 0594-86-7824
FAX 0594-86-7864
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



どこでも子育て支援！

地域子育て支援事業、ブックスタート事業 他2事業

事業開始年月日 平成17年4月1日

こんなところが
“いなべブランド”

いなべ市の全ての子育て家庭が安心して生活できるよう、出産の段階から途切れのない子育て支援サービスを提供しています。

このサービスを提供する上で、出前ひろばや子育て応援団など、地域全体で子育てを支援する環境づくりを行うことで、子育て家庭の孤立の防止や見守りにつながっています。

事業概要

近年、核家族化の増加や少子化の影響から子育てに不安を抱える家庭は増えています。いなべ市では、出産の段階から途切れのない子育て支援として次の事業を行っています。

○出前ひろば、子育て応援団

子育て支援専用軽自動車「おでかけGo(号)」が地域の公民館・公園等に出向き、その場所をお借りして、出会いと遊びの場を提供しています。

出前ひろばでは、子育て応援団のボランティアや民生委員の方にも協力していただき、子育て相談、保護者の仲間づくり等を支援しています。

○いなべ子育てガイドブック

子育てに関する情報をまとめた冊子です。母子手帳と一緒にお渡ししています。

○ブックスタート

生後6か月の全てのお子さんを対象に、子育て支援センターに親子で来ていただき、子育て応援団のボランティアや民生委員の方とのふれあいの中で、

絵本を開く時間の楽しさを感じてもらい、絵本をプレゼントします。

○1歳おめでとう訪問

満1歳の誕生月に子育て支援センター職員が自宅を訪問し、お子さんの足型をとってプレゼントしています。お子さんの様子を伺い、子育てに関する相談や情報提供を行っています。

○ブック・Reスタート

満2歳の誕生日を迎えるお子さんに、再度、絵本のプレゼント・読み聞かせを行います。親子で一緒に絵本に親しんでもらうため、読み聞かせのアドバイスやおすすめ絵本の紹介も行います。

○子育てランド

2歳児以上の未就園児を対象にこども園を開放し、こども同士、保護者同士の交流を図り、こどもたちがスムーズに集団生活に馴染めるようにしています。



おでかけGo(号)



いなべ子育てガイドブック



ブックスタート



出前ひろば

評価・
マスコミ
紹介等

お問合せ

1 健康こども部 母子保健課
電話 0594-86-7770
2 健康こども部 保育課
電話 0594-86-7823
(共通)住所 いなべ市北勢町阿下喜31
FAX 0594-86-7864



生きる力をつなげる チャイルドサポート

発達支援事業

事業開始年月日 平成21年4月1日

こんなところが
「いなべブランド」

支援を必要とする子どもの健全な発達を図るため、母子保健、保育、教育、障がい福祉の各部門が連携し、出生から就労まで途切れのない支援を行います。

令和元年5月には、新庁舎横に保健センターを整備し、市の発達支援拠点としての機能の充実を図りました。子どもの成長や発達に悩みを抱える保護者の方に寄り添いながら育ちを支える体制を整えています。

事業概要

特別な支援や配慮を必要とする子どもを含めた全ての子どもの健やかな成長のために、次の視点により事業を行っています。

〇気づく

支援が必要な子どもに、より早く適切な支援を行うために母子保健・子育て支援センター・認定こども園等が連携しています。

〇見守る

乳幼児健康診査、発達相談や就学相談の結果、支援が必要と思われる子どもには園、市の保健師、発達支援アドバイザー等が連携して、子どもにとって必要な対応や支援を考えます。

また、市内の園では、CLM（三重県が開発した発達支援ツール）により子どもの発達状況を確認し、適切な支援につなげています。

〇支援する

丁寧な支援が必要と思われる子どもには、園と発達支援課が協働して個別療育や小集団療育を実施し、子どもが成功体験を重ねる機会を作るとともに園や家庭での適切な対応や支援について考えます。

また、就園児や就学児の中で支援が必要と思われる子どもには、園や小中学校が「個別の指導計画」を作成し、その子に応じた支援を行います。

〇つなげる

園から小学校、小学校から中学校、中学校から高校、あるいは特別支援学校へと必要な支援情報を引き継ぎます。

さらに、4歳児対象の就学前訪問、小1訪問、小6訪問、中1訪問等の事業を通して園・学校と発達支援課が協働して子どもの発達を見守り、適切な支援につなげます。

支援を要する子どもには、その特性や保護者の願いを関係機関に引継ぎ、より良い支援が受けられるように相談支援ファイル（ハピネスファイル）を作成し活用します。

〇高める

園と小中学校での特別支援の中心になるコーディネーターが合同研修等を行い、スキルアップを図るとともに園、学校間の連携を深めています。

また保護者、保育士、教員等の子どもの支援者を援助するために、発達支援課に専門職員（公認心理師・作業療法士等）を配置し、保護者をサポートするとともに、園や小中学校における各種巡回相談・研修・指導を充実させています。



相談支援ファイル
「ハピネスファイル」



小集団療育教室

評価・
マスコミ
紹介等

R4 年度実績
・文部科学省季刊誌「特別支援教育 89 号」掲載
R5 年度実績
・日本 LD 学会第 32 回大会（広島）発表
R6 年度実績
・国立リハビリテーションセンター主催「巡回支援専門員研修会」実践報告

お問合せ

健康こども部 発達支援課
電話 0594-86-7825
FAX 0594-86-7864
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



つながり、支える、こどもの育ち

発達支援医療連携推進事業

事業開始年月日 令和5年4月1日

こんなところが
「いなべブランド」

いなべ市では、チャイルドサポートの更なる充実を目指し、令和5年度からいなべ総合病院小児科の専門医の参画を得て、保健・福祉・保育・教育の連携に医療を加えた、「発達障がい児地域支援ネットワーク」の構築を進めています。

事業概要

本事業では、①発達障がいをはじめとする発達に課題や心配がある子どもらが、身近なところで安心して医療にかかることができる地域医療体制の充実と、②医療支援を活用し、保健・福祉・保育・教育の連携による支援で生活を整え、日常生活の場における発達支援を推進しています。

【具体的な取り組み】

いなべ総合病院小児科を受診する子どもについて、発達支援課が窓口となり、医師と地域の支援者が情報共有・支援の検討を行い、支援方針を共有したうえで適切な支援につなげます。

○医療連携会議

月に1回、医師と発達支援アドバイザー、発達支援課職員で情報共有・支援検討を行います。

○園・学校巡回訪問

医師が園や学校を訪問し、園児や児童・生徒の観察を行い、園や学校の関係者と情報交換や支援検討を行います。必要に応じ、医師からは医療的なアドバイスがあり、支援者側の医療に関する知識・理解を深める機会となっています。



医療連携会議



配布チラシ



評価・
マスコミ
紹介等

【広報誌掲載】
・三重県厚生農業協同組合連合会発行「厚生連だよりVol.92」(令和5年11月)
・三重県立子ども心身発達医療センター発行「ひと・つな」だより2号(令和6年3月)
【取組発表】
・令和5年度第3回「e-ケアネットそういん」(令和6年2月)
・県国際交流財団主催シンポジウム「みんなで考える外国につながる子どもの発達障害」(令和6年8月)

お問合せ

健康こども部 発達支援課
電話 0594-86-7825
FAX 0594-86-7864
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



SDGs の該当目標



自然保育で「生き抜く力」を育む

保育士研修事業

事業開始年月日 平成29年4月1日

こんなところが
「いなべブランド」

いなべ市内の公立・社協立の認定こども園全10園では、専門家を招いて研修を行い、自然保育に取り組んでいます。

自然体験を通して、子どもたちの知的好奇心や感性が豊かに育まれ、社会性、自尊心、自己肯定感、主体性など「非認知的能力」の向上が期待されると言われています。

園庭だけでなく、園周辺の森林や川、田畑をフィールドに幼少期からの自然保育を展開しています。

事業概要

自然保育（旧称：野外体験保育）とは、野外を中心とした地域の自然を活用した体験活動を取り入れた保育・幼児教育のことで、国の「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン」において、こどもの育ちには豊かな「遊びと体験」が不可欠であることが明記されています。

園では、いなべ市の次代を担う子どもたちが「生き抜く力」を身に付けて健やかに育ち、地域社会の絆や豊かな川、里山に愛着をもって次世代に引き継げるよう、こどもを主役に自然保育を進めて

います。研修を受けた保育士をはじめとする周囲の大人が、こどもの多様性と興味関心を尊重し、こどもが持つ「自ら学び成長する力」を信じ、見守り、育むことを心がけ進めています。

また、園庭や、園外活動が中心となるため、危険個所の点検・整備によって保育環境を整えるとともに、活動フィールドの所有者や自治会関係者など地域へ主旨を説明し、地域の方や保護者の理解を得ながら進めています。



自然保育の様子①



自然保育の様子②

評価・ マスコミ 紹介等

- みえ自然保育協議会理事就任（R5年度～）
- 事例発表
 - ・森と自然の育ちと学びラポ2021（「地域連携」の仕組みづくり）（R3年度）＜主催：森と自然の育ちと学び自治体ネットワーク、（公社）国土緑化推進機構＞
 - ・第1回みえ森林教育シンポジウム（幼児教育・保育セッション）（R4年度）＜主催：三重県＞
 - ・支援事例オンライン検討会（R5年度）＜主催：日本自然保育学会、実践・研究推進委員会（保育環境の充実のあり方に関するワーキンググループ）＞

お問合せ

健康こども部 保育課
電話 0594-86-7823
FAX 0594-86-7864
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



「からだ」も「地域」もゲンキに！ ～元気リーダー大活躍～

介護予防推進事業

事業開始年月日 平成14年4月1日

こんなところが
“いなべブランド”

いつまでも健康でいられるように自治会の集会所等を中心に元気づくりシステムを実施し、多くの方が参加しています。また、この健康の輪を広げる仕組みとして、所定の回数を受講した「元気リーダー」が、地域の中で元気づくりシステムを上げています。地域のマンパワーを活用した健康増進につなげる仕組みは全国でも高く評価されています。

事業概要

高齢化の進行等により増加する医療費や介護給付費への対策は、国、全国の自治体において、重要な課題の一つです。要支援状態になる前に健康増進、介護予防に積極的に取り組み、高い健康意識を持っていただけるように、いなべ市では元気づくりシステムを導入しています。

○元気づくりシステム

元気づくりシステムは、ストレッチ体操、ウォーキング、ボール運動等を取り入れた健康増進、介護予防体操です。介護予防体操は、運動器の機能向上を主な目的とした体操で「一般社団法人 元気クラブいなべ」のオリジナルです。市内体育館等で指導者により実施する「拠点コース」、週2回6ヶ月実施する「集会所コース」、30回以上元気づくり体験に参加した元気リーダーが実施する「元気リーダーコース」の3コースがあります。

また、地域の高齢化対応として、元気リーダーコースを運動機能向上の場としてだけでなく、地域包括支援センターや生活支援コーディネーターとの連携により、介護予防啓発や困りごと・心配ごとの相談の場として、支援が必要な人を取りこばさないようアウトリーチ型支援の場等として活用の幅を広げています。

住民自立型（リーダーコース）80地区・元気リーダー認定者数 1,025人（令和6年度末）



元気リーダーによる活動の様子【貝舟町石仏地区】



元気リーダー向けイベント「ヘルス・グリーン・ツーリズム ウォーク アロングザコースト伊勢志摩」の様子

評価・
マスコミ
紹介等

住民参加や地域づくりの創出につながる点が高く評価され、このいなべ市で出来上がったシステムが全国で取り入れられています。
(福島県伊達市、広島県北広島町、熊本県南関町、三重県玉城町、栃木県市貝町、福島県大玉村、北海道松前町)

お問合せ

福祉部 長寿福祉課
電話 0594-86-7819
FAX 0594-86-7865
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



住み慣れた地域で 安心した生活を

生活支援体制整備事業

事業開始年月日 平成29年4月1日

こんなところが
“いなべブランド”

高齢化が進む中、誰もが住み慣れた地域で安心して生活を送れるよう、いなべ市では、自治会を基本単位として、福祉委員会の設置を推進しています。全国的には基本単位を小中学校区域で設定する自治体が多い中、市民にとって一番身近なエリアである自治会での設置を推進することで、地域内のつながりを深めています。

事業概要

高齢者世帯の増加等により、行政サービスだけでは要支援者の在宅生活を支えることが難しくなり、地域での互助や助け合いが必要となってきています。

いなべ市では、社会福祉法人いなべ市社会福祉協議会と連携し、福祉委員会の設置を進めています。

福祉委員会は、自治会を基本単位として、地域の人たちが自主的に運営し、地域課題を地域で話し合う場です。福祉委員会のメンバーは、自治会の役員、民生委員児童委員、主任児童委員、老人会役員、サロンの主催者、地域で福祉活動を担っている人などで構成され、福祉委員長が中心となって取り組みを進めています。

令和7年1月末時点で、75地区で福祉委員会が設置されています。引き続き福祉委員会の設置を推進します。

○福祉委員会ではどういったことをしているの？

- ・地区内における課題の把握と情報の共有。支え合いマップ（地域で支援が必要な人とその人の見守りを行っている人の情報を住宅地図を使って委員会のメンバーが共有するもの）の作成による見える化
- ・地区内の課題解決に向けた話し合い
- ・地区内での見守りやサロン活動等への働きかけ
- ・地区内外の関係者やほかの福祉委員会等とのネットワークづくり等



東貝野福祉委員会



東一色福祉委員会



鍋坂区福祉委員会



古田自治会福祉委員会

評価・
マスコミ
紹介等

お問合せ

福祉部 長寿福祉課
電話 0594-86-7819
FAX 0594-86-7865
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



レインボーフラッグが 掲げられる社会に！

LGBT 啓発事業

事業開始年月日 令和2年7月1日

こんなところが
“いなべブランド”

年々、パートナーシップ宣言制度を導入する自治体が増えつつあるものの、まだまだ全国的に性的マイノリティへの誤解や偏見は社会に根強くあり、不当な差別的取扱いにより生きづらさを抱えている当事者は少なくありません。

いなべ市は、この課題を速やかに解決するために三重県の自治体の中で、1番早く性の多様性に関する条例を制定しており、先進的な事例として県内外において、高く評価されています。

事業概要

同性愛や性同一性障害などの性的マイノリティも含む全ての人が平等で差別されることのない社会を実現していく必要があります。

いなべ市では、性的指向や性自認などに関わらず、自らの意志と責任により、より多様な生き方が選択できるように、次の取組を行っています。

○条例の制定

性の多様性を認め合う社会を推進するために、いなべ市では、いなべ市性の多様性を認め合う社会を実現するための条例（令和2年6月26日付）を制定し、基本理念を定めるとともにカミングアウトの強制やアウトティングの禁止などの内容を盛り込み、この条例を事業の柱とし、LGBT 啓発事業に取り組んでいます。

○パートナーシップ宣誓制度の導入

現在、日本の法制度では同性婚は認められていません。いなべ市では、いなべ市パートナーシップの宣誓の取扱いに関する規則（令和2年6月30日付）を制定し、同性カップルが、相互に協力し、共生

活を行っていくこと等を市に宣誓することで、市がパートナーとして登録するパートナーシップ宣誓制度を導入しています。

この制度の導入により、当事者の方が社会においていきいきと活躍されることが期待されます。

○宣誓制度の自治体間連携

令和6年11月1日に全国の宣誓制度導入自治体で構成される「パートナーシップ制度自治体間連携ネットワーク」に加入し、宣誓者の転居に伴う手続きを簡素化することで更なる制度の利便性向上を図っています。これにより、連携自治体間で転居を行う際、再度の宣誓が不要となり、通常より簡易な手続きで転入先の自治体でもパートナーシップ宣誓制度を継続することができます。

本ネットワークには、令和7年1月1日時点で19府県151市町が参加しており、今後も更なる連携拡大が期待されます。



講演会



交流会



いなべ市レインボーフラッグ

評価・
マスコミ
紹介等

行政視察受入実績
・栃木県日光市(令和5年度)
・北海道旭川市(令和6年度)

お問合せ

福祉部 人権福祉課
電話 0594-86-7815
FAX 0594-86-7864
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



「いなべの里の蕎麦」 全国への挑戦

地産地消推進事業

事業開始年月日 平成17年4月1日

こんなところが
“いなべブランド”

いなべ市では、平成14年度にそばの生産を開始しました。獣害に強い作物として生産が始まり、64ha（令和5年）の作付面積は、三重県 No.1。

このそばの生産に加え、いなべ市そば祭りの開催等により、シティプロモーションの促進や地域の交流ツールとして、そば打ちが根付いてきています。

事業概要

中山間地域に面するいなべ市では、山間部を中心に猿、シカ、イノシシ等の獣害が増えつつあります。いなべ市では、獣害対策の一環として、そばの生産をはじめました。

美味しいそばが育つ条件は、そばの花が咲く時期から実が大きくなるまでの気候が冷涼で昼夜の気温差が大きいことです。いなべ市は、そばが実をつける秋頃がこの気候と非常に合致しています。またそばは、水が大の苦手です。灌漑用の溜池に頼る水田農業を行う地域では、この水の不便さを利用して栽培を行っています。

猿は非常に警戒心が強く、新しい食べ物を食べるには相当時間がかかります。新規生産物としてそばの生産を始めることにより、獣害にも強い農業基盤をつくれます。平成14年からそばの生産を始め、現在でも獣害によるそばへの被害はありません。

また地域課題解決というストーリーのあるそばをいなべ市のブランド産品に位置づけ、シティプロモーションや地域活性化に活かしています。

このイベントは、そば打ちの練習を行う市民の方のお披露目の場にもなっており、更なるそば打ち振興や交流を深める中で、イベントを機にそば打ちを始められる方など、そばを広める大きなきっかけとなっています。



そば畑



そばの花と手打ちそば



そば祭り そば打ち名人

○いなべ市そば祭り

新そばの収穫時期（11月頃）に開催し、いなべ産新そば粉、そばの販売、そば打ち体験などを行っています。全国から多くの方にお越しいただき、そばによる交流が生まれています。

評価・
マスコミ
紹介等

・R元年度 全国素人そば打ち段位認定いなべ大会開催(後援:一般社団法人全麺協)

お問合せ

農林商工部 獣害対策課
電話 0594-86-7832
FAX 0594-86-7869
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



青川の清い流れと緑で… 元気注入！

観光施設整備事業（青川峡キャンプパーク）

事業開始年月日 平成15年4月12日

こんなところが
“いなべブランド”

青川峡キャンプパークでは、充実したアウトドアの環境だけでなく、日頃アウトドアなど自然に触れ合う機会の少ない都市住民等の来客者に対して、家族向けやキャンプ初心者向けに各種レンタルセットや充実の施設を用意し、快適なアウトドア体験を提供しています。その中で、いなべ市の魅力を知ってもらうことで幅広いユーザーの確保と高いリピート率を誇り、年間約40,000人の方が訪れています。

事業概要

近年高まるアウトドア需要の中で、山登りでいなべ市を訪れた人は山に登って帰るといった単一的にアウトドアを楽しむだけでなく、山でクッキングを楽しんだり、山の材料を使って新たな遊び方を発見したり、地元の人々と交流したりといった多面的な観光事業を展開していくことが、重要となります。

そのため、いなべ市では、恵まれた自然環境を活かした都市農村交流施設として、平成16年度に青川峡キャンプパークを整備しました。これまでとは違った形のアウトドアライフ等の提案を行い、都市交流の拠点となる施設として利用することで、いなべ市のファンを増やす取り組みを行います。

○充実した施設

青川峡キャンプパークには、炊事場やシャワー室、清潔なサニタリー、それぞれの好みに合わせたオートキャンプサイト、雨でも安心な炭火焼ハウス（全天候型バーベキュー施設）等、充実した環境が整っており、キャンプ、アウトドア初心者の方でも安心して快

適に楽しめ、利用者のニーズに幅広く対応しています。

すぐそばを流れる青川は水深が浅く、小さなお子さまから水遊びができ、併設の公園には遊具も揃っています。また、各種体験ワークショップの開催もあり、親子で楽しむことができます。

センターハウスには、アイテムを豊富に揃えたショップ、道具を持っていなくても全て揃えることができるレンタルルームが備わり、キャンプ初心者やこれから始める人をサポートする万全の環境が整っています。

青川峡キャンプパーク

いなべ市北勢町新町 614

電話 0594-72-8300

<http://www.aogawa.jp>



センターハウス（管理棟）



テントサイト



キャンプ用品のレンタルルーム



キャンプ場に沿って流れる青川

評価・
マスコミ
紹介等

- ・各テレビ、アウトドア雑誌にて多数紹介。
- ・BE-PALほんとうに気持ちいいキャンプ場100選出（2023版）
- ・オートキャンプ専門誌“ガルヴィ”人気キャンプ場ランキング 西日本部門2023年1位

お問合せ

農林商工部 商工観光課
電話 0594-86-7833
FAX 0594-86-7869
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



農業公園発！ スローライフとロハスな暮らし

観光施設整備事業（いなべ市農業公園）

事業開始年月日 平成15年4月1日

こんなところが
“いなべブランド”

多くの地域の高齢者がいなべ市農業公園の管理等に従事しており、知恵を出し合い、地域とともに施設の活用を行っています。高齢者福祉及び活躍の場の創出、農業振興、循環型社会の実現等、農業公園の活用を通じて、様々な地域課題を相乗的に解決しています。

2月末から3月にかけて開催される梅まつりは、毎年80,000人もの入場者数を誇り、都市農村の交流に大きく貢献しています。

事業概要

高齢化の進むいなべ市では、高齢者の生きがいづくり対策と水源地として景観や水源を守る農業の多面的な機能を重視した、地域農業の確保が緊急に必要とされていました。そこで、特に高齢化の著しい藤原町鼎地区において荒廃農地を有効に活用して、都市農村交流拠点としていなべ市農業公園を整備しました。都市と農村との相互理解の促進、高齢者就業機会の確保、農地の新たな活用による特産品の開発、生産者の生きがい発揮による地域の活性化を図っています。

〇充実した施設

いなべ市農業公園は、東海地区最大級で約100種4,000本の梅の花がある梅林公園と、牡丹園、パークゴルフ場、農業公園レストラン「フラル」等があるエコ福祉広場の2施設を合わせて農業公園といえます。

38ヘクタールの梅林公園では、3月に「梅まつり」、6月に「梅の実もぎとり体験」や「梅ジュースづくり体験」を開催しています。

18ヘクタールのエコ福祉広場では、4月下旬から5月上旬にかけて、色とりどりのばたんが開花します。また子どもからお年寄りまで親子3世代で楽しめるパークゴルフ場や子ども広場が整備されています。お食事は、安全安心な地元野菜を中心としたビュッフェスタイルのレストラン「フラル」があり、四季折々が楽しめる公園です。

令和3年にドッグラン付きオートキャンプ場を創設し、更なる交流促進につなげます。

地域の高齢者たちが知恵を出し合い、ゆっくり手作りして作り上げたいなべ市農業公園で「見る、遊ぶ、食べる」といったスロースタイルを体験でき、癒しの空間となっています。

いなべ市農業公園
いなべ市藤原町鼎 3071
電話 0594-46-8377

<http://www.inabe-nougyoukouen.com/>



パークゴルフ場



梅林



牡丹園

評価・
マスコミ
紹介等

NHK、東海テレビ、三重テレビ、中日新聞など、毎年各メディアで報道

お問合せ

農林商工部 商工観光課
電話 0594-86-7833
FAX 0594-86-7869
住所 いなべ市北勢町阿下喜31

SDGs の該当目標



宇賀溪キャンプ場が日本初の“Hygge”をテーマにしたアウトドアフィールドへ!

観光施設整備事業（宇賀溪キャンプ場）

事業開始年月日 令和5年4月3日

こんなところが
“いなべブランド”

日本とデンマークの官民連携による国境を超えたグローバルプロジェクト。日本初となる”Hygge”をテーマにしたアウトドアフィールドが、鈴鹿国定公園内の宇賀溪にオープンしました。

このプロジェクトはいなべ市、ノルディスクをはじめ、デンマークを拠点とする建築会社と日本を拠点とするエンジニアリング会社、サステナビリティアドバイザーに加え、デンマーク大使館との提携のうえ共創した先駆的な事業です。

事業概要

いなべ市は、令和3年度にアウトドアブランドの株式会社ノルディスクジャパンと包括協定を締結しました。連携を進める中で、SDGs 先進国のデンマークにあるノルディスクの代表が宇賀溪を訪れ、「とても美しい。ここなら、自然ならではのHyggeを表現できる」と評価してくれたのがプロジェクトの始まりです。

令和5年4月3日に待望のグランドオープンを果たした「Nordisk Hygge Circles UGAKEI」は、日本初となる、“Hygge”をテーマにしたアウトドアフィールドです。

「Hygge」とは、デンマーク語で「豊かな時間の過ごし方、心の持ち方」を意味する言葉。「宇賀溪の自然でHyggeを描く」をコンセプトとし、昔から守られ続けてきた宇賀溪の豊かな自然とHyggeの世界観が調和した空間の中で、心地よい時間を提供します。守られ続けてきた宇賀溪の自然の中で、ほっと癒される心地よい時間と空間、その体験による幸福感（Hygge）を感じていただけます。



Hygge TENT



Hygge CABIN

評価・
マスコミ
紹介等

- TV
・ハピキャン(令和4年12月5回)
・マツケンさんぽ(令和5年5月)
・花咲かタイムズ(令和5年6月)
雑誌
・東海Walker(令和3年8月、令和5年2月)
・東海アウトドアWalker(令和4年7月、令和5年7月)
・関西Walker(令和5年2月)
・関西日帰りドライブWalker(令和5年3月)

お問合せ

農林商工部 商工観光課
電話 0594-86-7833
FAX 0594-86-7869
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



世界のプロサイクリストが集うまち いなべ

ツアー・オブ・ジャパン開催事業

事業開始年月日 平成27年5月19日

こんなところが
「いなべブランド」

国内最高峰のステージ制自転車ロードレース、ツアー・オブ・ジャパン（TOJ）いなべステージを開催するにあたり、市内企業、ボランティアなど様々な団体が連携し、実施することで、官民一体となって大会を運営しています。

大会当日は、市内の小学校や保育園をはじめ、地域住民や市外からも多くの観戦者（令和元年度は、観客数 20,000 人を記録）を迎えることができ、地域の活性化、スポーツ振興に繋がっています。

事業概要

いなべ市では、出産や子育ての中心である 20 代、30 代の若年層の都市部等への流出が進み、今後ますます人口が減少すると予測されます。

このことから自然豊かないなべ市の特色を活かしたスポーツ振興、観光による地域活性を目的にいなべ市に訪れるサイクリストや自転車を利用する市民へのサービス提供（サイクルラック、サインなど）、情報発信等を行い魅力あるまちづくりから定住促進を図っています。

その取り組みの中で、平成 27 年から TOJ いなべステージを開催しています。

現在、日本国内には 9 つの UCI（国際自転車競技連合）公認のロードレースがあります。この中でも TOJ は、8 日間 8 ステージという最大の大会規模を誇り、全体を通じた観客数が 35 万人を超えるイベントです。

TOJ いなべステージは、いなべ市の自然豊かで起伏に富んだ道路環境を利用したコースを設定しています。阿下喜温泉前をバレード走行しながら、周

回コース（1 周 14.8 km、8 周）へと進み、最大勾配 17% の激坂を含む山岳ポイントやテクニカルな下り、ワインディングロード等序盤から難所が続き、フィニッシュ前 1 km 付近から通称「イナベルグ」と呼ばれる道幅の狭い急坂区間もあり、展開の読めない難コースとして知られています。

国際大会の開催を契機に、いなべ市を訪れるサイクリストも増加し、「自転車のまち いなべ」としてのブランドづくりの大きな役割を果たしています。

大会の開催前には、地域の小学校で交通安全教室（ウィーラースクール）を実施し、「自転車での交通ルールの遵守」について指導する等、地域貢献の一端を担っています。

また、今秋開催の三重とこわか国体では、自転車ロード・レース競技を開催することで、更なる「自転車の聖地」としての魅力づくりを行います。



レースの様子



急坂を上る選手たち



ウィーラースクール



選手とファンとの撮影

評価・
マスコミ
紹介等

- ・各社新聞報道（中日新聞・朝日新聞等）（H31 年 1 月～R1 年 5 月、R2 年 10 月）
- ・TV 報道（H31 年 2 月～R1 年 6 月）
- ・BS 日テレ「ツアー・オブ・ジャパン総集編（R1 年 6 月 29 日）等

お問合せ

教育委員会事務局 生涯学習課
電話 0594-86-7847
FAX 0594-86-7860
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



先進的文書管理 「ファイリングシステム」

文書管理適正化事業

事業開始年月日 平成17年3月1日

こんなところが
「いなべブランド」

ファイリングシステムは、平成23年4月に施行された公文書管理法に基づくガイドラインに則したものです。いなべ市では、平成16年度から導入しており、ガイドラインができる前から全国に先駆けて、実施しています。県内の自治体の中でも、初めて導入した自治体です。

また統一したルールの中で、書類が保管されているため、担当者が不在の時でも素早く情報提供ができ、住民サービスの向上にも繋がっています。

事業概要

行政運営を行う上で、多くの個人情報を取り扱うため、発生から廃棄まで徹底した文書管理やセキュリティ対策が求められています。

いなべ市では、現在及び将来の市民に対する説明責任を果たし、市政の透明性を高めるとともに市民共有の財産である公文書を適切に管理するため、平成16年度よりファイリングシステムを導入しています。

ファイリングシステムとは、個別フォルダとキャビネットを活用した文書管理システムで、一般的な薄冊によるものと比較して、検索性・セキュリティに非常に優れたシステムです。

具体的な管理方法は、文書の発生から、保管、保存、廃棄までを記録する「ファイル基準表」を作成し、年度ごとに管理を行います。3段式のキャビネットを利用し、上段2段に現年度の文書、一番下の段には前年度の文書が整理されています。前々年度以降は保存場所がわかるようにし、書庫で保存します。平成30年2月には、文書管理ソフトを導入し、更なる文書管理体制を構築しました。

このファイリングシステムを導入することで、事務室内の収納効率の向上、情報漏洩の防止対策の徹底、書類検索の時間短縮など、業務効率の改善に繋がっています。

【導入前】



書類があちこちに置かれています。



薄冊に綴じ込まれた文書は、担当者でも探すのが大変でした。

【導入後】



担当者でなくても、必要な文書をキャビネットからすぐに探し出せます。



文書管理ソフトで文書の発生から廃棄まで正確に管理できます。



2年以上前の書類も書庫で整理して保存されているため、すぐに取り出せます。



スッキリとした執務環境で、仕事の効率も上がります。

評価・
マスコミ
紹介等

お問合せ

企画部 法務課
電話 0594-86-7743
FAX 0594-86-7858
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



納税意識の高いまち いなべ

市税収納事業

事業開始年月日 平成16年4月1日

こんなところが
“いなべブランド”

多様な納税方法、個別相談等により、市民としっかり向き合い、納税しやすい環境づくりを行っています。この結果、毎年県内の市（14市）の中で常に上位の収納率を占めています。

また、小学校に出向き行う租税教室では、納税による行政運営の仕組み等を伝え、納税意識の醸成を図っています。

事業概要

全国で広がるキャッシュレス化等、多様なニーズに対応した税金の納税体制を構築していく必要があります。

市が徴収する税金は、市民税、市たばこ税、鉱産税、軽自動車税、固定資産税です。すべての税金において、収納率の向上を図り、充実した行政サービスの提供につなげるため、次の取組を行っています。

○多様な納入方法

納税方法は、口座振替納税、コンビニ納税、スマホ決済を準備し、納税環境を整えています。

○相談体制

税金の算定方法、納税方法など気軽に窓口で聞ける体制が整っています。

また事情により納められない人には、分割納付等、親切・丁寧な納税相談を行っています。

○小学校で税金の授業

毎年、市内の小学校に出向いて租税教室を実施しています。税金の使われ方等の税に対する理解を深

め、将来の納税意識の醸成を図ります。

○法律に基づいた適切な対応

納税されない人に対しては、債権（売掛金、預貯金、給与等）や不動産（土地や建物）、無体財産（電話加入権や出資金等）等、法律に基づいた厳格な差押えを行います。



租税教室の様子

■過去5年間の収納率の推移

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
いなべ市	98.0%（2位）	98.2%（2位）	98.1%（2位）	98.2%（3位）	98.7%（1位）

（ ）内の順位は、県下14市の順位

no

評価・
マスコミ
紹介等

・市税収納率 県内の市で上位

お問合せ

総務部 納税課
電話 0594-86-7793
FAX 0594-86-7863
住所 いなべ市北勢町阿下喜31

THIS IS INABE BRAND

終了した
ブランド
事業

みんなでサポート「働く笑顔」

障がい者就労支援事業

事業終了年月日 平成 27 年 3 月 31 日

お問合せ

福祉部 障がい福祉課 0594-86-7816

※平成28年度に就労支援事業所が出来たことから、事業を移管しました。
相談業務は「障がい者総合相談支援センターそういん」に委託しています。

事業概要

一般就労が難しいとされる障がい者の就労を支援するため、仕事を体験する機会（職場実習の場）を確保し、就職、復職、職場適応に向けた支援を行います。職場実習をとおして、さまざまな仕事の経験や働く準備をすることで、社会的自立を目指すとともに、地域で豊かにいきいきとした生活を送るための支援をします。

ホタルの里づくり

立田小学校ホタルの里づくり事業

事業終了年月日 平成 29 年 3 月 31 日

お問合せ

教育委員会事務局 学校教育課 0594-86-7844

※立田小学校は小学校の統廃合により、平成29年3月31日に閉校しました。

事業概要

立田小学校では、児童の主體的な探求活動として「ホタルの里づくり」に取り組んできました。揖斐川の源流の一つである赤尾川、地域の用水やビオトープの研究、幼虫の繁殖・放流等を行い、ホタルが育つ環境保全を地域とともに進めます。

学校と地域が取り組む花壇づくり

中里小学校花づくり事業

事業終了年月日 平成 29 年 3 月 31 日

お問合せ

教育委員会事務局 学校教育課 0594-86-7844

※中里小学校は小学校の統廃合により、平成29年3月31日に閉校しました。

事業概要

中里小学校は、約 40 年間 FBC（フラワーブラボーコンクール）に参加しています。小学 5 年生の児童が中心となって活動し、発送された種のみを使用して、コンクールに臨みます。児童が育てた苗を使って、保護者や地域の人々をはじめ老人ホーム等へも花を届ける等、地域との交流を深めています。

できることから始める環境教育

員弁中学校環境教育推進事業

事業終了年月日 平成 29 年 3 月 31 日

お問合せ

教育委員会事務局 学校教育課 0594-86-7844

※H29年度をもって、生徒主導による環境教育は終了しました。

事業概要

夏季に、校舎南側につる性の植物を育て、日陰を作るとともに、気化熱により熱放射を抑制し、室内温度を下げています。この「緑のカーテン」は、教室環境を整えるとともに、安易に電気エネルギー等を利用せず自然の力を活用することを通して「自分でできること」を考え、「持続可能な社会づくり」の一端を担う生徒を育てます。

全国1位※の電子市役所

※人口5万人未満の自治体で

電子市役所推進事業

事業終了年月日 平成 29 年 3 月 31 日

お問合せ

企画部 法務情報課 0594-86-7743

※ランキングが古いデータであることから、既存ブランド事業からページを移行しました。

事業概要

いなべ市では、HP から電子申請、クレジット納付や公共施設の予約等各種オンラインサービスが利用できる等、電子市役所として利便性を高めています。また、生活に役立つ情報を配信するメール配信サービスや、平成 26 年度からは、全国のコンビニエンスストアで住民票や納税証明書等を取得できるサービスも開始しました。市役所内においてもセキュリティポリシーの策定やセキュリティ教育等の情報漏洩対策を実施し、全国的に評価されています。

三重県モデル いなべの集落農業

集落組織づくり推進支援事業

事業終了年月日 平成 22 年 3 月 31 日

お問合せ

農林商工部 農林課 0594-86-7831

※事業実施により、集落支援農業体制が確立されたため、既存ブランド事業からページを移行しました。

事業概要

農事従事者の高齢化、耕作放棄地の増加、若者の地域離れという課題を解決するため、いなべ市独自の集落営農の仕組みをつくり上げました。市、J A、県の担当者が市内全ての集落に出向き、地域住民と各集落農業の現状と将来像を共有する「座談会」を平成 16 年に、集落の農業を全員で力を合わせ守っていく仕組みである「集落ぐるみの農業生産体制」を確立するため、いなべ市「集落組織づくり推進支援事業」を平成 17 年度からスタートしました。

「元気づくり」は「地域づくり」！ いなべから全国へ

元気づくりシステム全国発信事業

事業終了年月日 令和3年3月31日

お問合せ

福祉部 長寿福祉課 0594-86-7819

※(一社)元気づくり大学により「元気づくりシステム」の全国発信が開始されたため、事業を終了しました。

事業概要

待ったなしの高齢化対策は、国や全国自治体における重要な課題の一つです。元気づくりシステムは、医療費抑制や、健康増進・介護予防等の公衆衛生の観点、さらには地域づくりの観点から住民の力を活用した超高齢化社会の切り札として、全国から注目を浴びています。

この元気づくりシステムが全国の自治体等で導入され、日本国民のための元気づくりシステムへと展開されるよう産官学民で協働し全国発信しています。

どの子もわかり 参加できる授業づくり

山郷小学校特別支援教育

事業終了年月日 令和3年3月31日

お問合せ

教育委員会事務局 学校教育課 0594-86-7819

※山郷小学校だけでなく、全校的にこの取り組みが広がってきたため、終了しました。

事業概要

いなべ市の小学校では、特別が見えない特別支援教育として、どの子もわかる・参加できる授業づくりを教師が意識し、障がいのある生徒への教育にとどまらず、がいの有無やその他の個々の違いを認識しつつ、様々な人々がいきいきと活躍できる共生社会形成の基礎を授業の中で培っています。

また特別支援教育での学びを深めるため、ユニバーサルデザインの授業を行い、体系的に共生社会への理解を深めています。

検診受けて湯^ゆかった

特定健康診査事業

事業終了年月日 令和5年3月31日

お問合せ

市民部 保健年金課 0594-86-7811

※阿下喜温泉が民間運営に変更となるため、この事業は終了しました。

事業概要

国民健康保険加入者で検診受診された方へ、インセンティブとしていなべ市の健康増進施設である阿下喜温泉利用券「お得一ポン」を配布することで、健康増進に積極的に取り組む方を応援しています。

このいなべ市独自の取り組みなどにより、特定健診受診率は、県内でもトップクラスです。

地域と共に育つ学校

特定健康診査事業

事業終了年月日 令和5年3月31日

お問合せ

教育委員会 学校教育課 0594-86-7844

※いなべ市だけでなく、全国的にもこの取り組みが広がってきたため、ブランド事業としては終了しました。

事業概要

地域の子どもや学校を取り巻く問題を地域の課題として捉え、共に解決するため、多くの地域住民が学校運営、学校支援に携わり、交流しています。

また、子どもや学校の課題にとどまらず、地域課題を解決するための協働の場として学校づくり、人づくり、地域づくりに取り組み、地域のコミュニティ強化も図っています。

ブランドの目的

既存ブランド事業

終了した
いなべブランド事業

いなべ市について

THIS IS INABE BRAND

いなべ市に
ついて

いなべ市について



三重県の北の玄関口に位置するいなべ市は、北に養老山地、西に鈴鹿山脈をいただき、田園地帯が広がる緑豊かなまち。花の百名山「藤原岳」、笹原の「竜ヶ岳」、滝巡りの「宇賀溪」、西日本屈指の人気を誇る「青川峡キャンプパーク」等、豊かな自然が育むアウトドアスポットが満載です。また、日本でたった3路線しかない線路幅762ミリの「北勢線」が走るまちでもあります。

1世紀の時を刻むように、かわいい黄色の電車はのんびりと走り続けています。



アルファード (ALPHARD)



いなべ市は良質米やお茶の産地として知られる一方で、自動車関連企業等も立地し、活力のあるまちとして発展を続けています。令和元年には、新庁舎及びにぎわいの森が開業する等、更なる飛躍が期待されています。

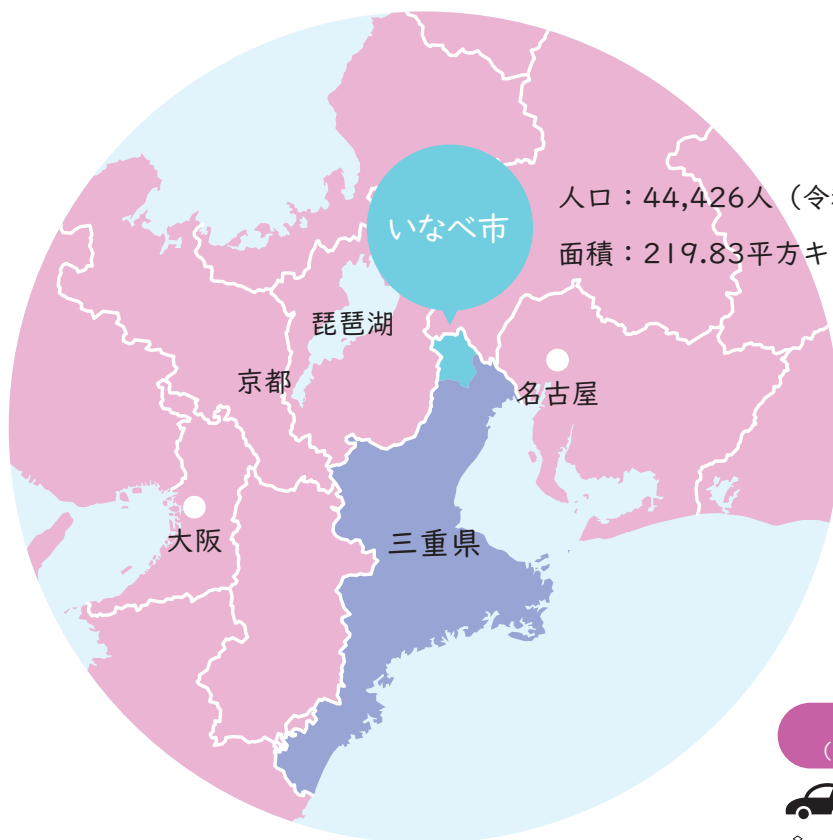
いなべ市は、市民がいきいきと暮らす活気に溢れたまちです。今後も地域を誇りに思い、ふるさとへの愛着を育むまちづくり、市民が主役のまちづくりを進めていきます。

いなべ市のすがた

項 目		単位	いなべ市	調査年又は 調査年度	備 考
総面積		km ²	219.83	令和6年	一部境界未定のため概算数値です。
総人口		人	44,973	令和2年	令和2年国勢調査
人口密度		人 / km ²	205	令和2年	総面積1 km ² 当たり 令和2年国勢調査人口÷総面積
人口増減		%	98.2	令和2年	令和2年国勢調査人口÷ 平成27年国勢調査人口
世帯数		世帯	18,075	令和2年	令和2年国勢調査
1世帯当たり人員		人	2.49	令和2年	令和2年国勢調査人口÷ 令和2年国勢調査世帯数
財 政	決算額	千円	24,879,775	令和6年度	令和5年度一般会計歳出決算額
	標準財政規模	千円	14,509,676	令和6年度	令和5年度地方財政状況調査
	財政力指数		0.76	令和6年度	
	経常収支比率	%	89.3	令和6年度	
	実質公債費比率	%	9.8	令和6年度	令和5年度健全化判断比率
出生者数		人	256	令和6年	住民基本台帳人口 (令和6年1月1日～12月31日)
死亡者数		人	549	令和6年	
転入者数		人	2,495	令和6年	
転出者数		人	2,326	令和6年	
事業所	事業所数	事業所	1,846	令和3年	令和3年経済センサス活動調査
	従業者数	人	29,997	令和3年	
農業	農家数	戸	688	令和2年	2020年農林業センサス
	耕地面積	ha	2,069	令和2年	
工業	事業所数	事業所	177	令和2年	令和3年経済センサス活動調査 (従業員4人以上の事業所)
	従業者数	人	18,537	令和2年	
	製造品出荷額等	万円	166,279,287	令和2年	
商業	商店数	事業所	354	令和3年	令和3年経済センサス活動調査
	商業従事者数	人	2,587	令和3年	
	年間商品販売額	百万円	40,554	令和3年	
学 校	小学校数	校	11	令和6年度	令和6年度いなべ市教育要覧
	小学校児童数	人	2,160	令和6年度	
	中学校数	校	4	令和6年度	
	中学校生徒数	人	1,133	令和6年度	
医 療	病院数	院	4	令和5年度	令和6年度桑名保健所年報 (令和5年度実績)
	一般診療所数	所	23	令和5年度	
	歯科診療所数	所	16	令和5年度	
	医師数	人	81	令和4年	
	歯科医師数	人	17	令和4年	
	看護師数	人	440	令和4年	
	准看護師数	人	98	令和4年	
	薬剤師数	人	72	令和4年	

年は暦歴（1月から12月）、年度は会計年度（4月から翌年3月）を示します。





いなべ市

人口：44,426人（令和7年3月1日）

面積：219.83平方キロメートル

所要時間

（名古屋市～いなべ市）



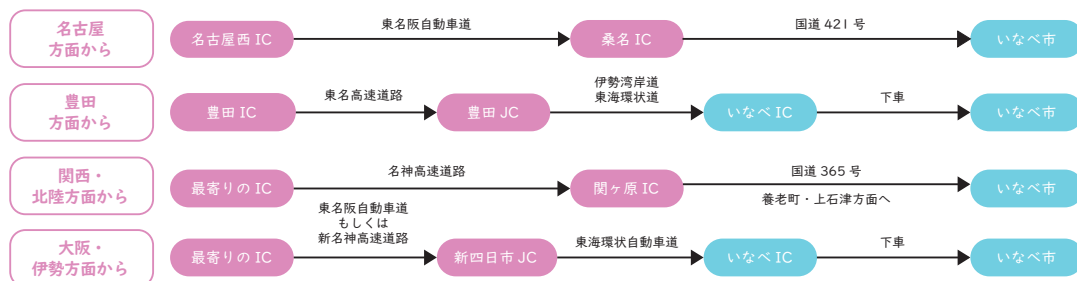
自動車：50分



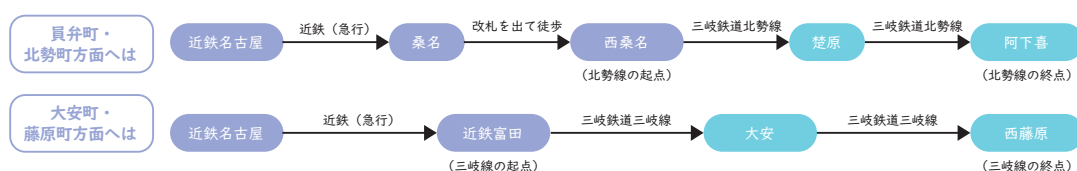
電車：50分

交通のご案内

お車のご利用



電車のご利用



★時刻等についてのお問合せ

・近鉄桑名駅 電話 0594-22-0045 ・近鉄富田駅 電話 059-365-0300 ・三岐鉄道 電話 059-364-2141 ・三重交通 電話 0594-72-2469



INABE BRAND 2025

発行日 令和7年3月31日

発行 いなべ市

編集 企画部政策課

〒511-0498 三重県いなべ市北勢町阿下喜 31 番地

電話 0594-86-7741

HP <https://www.city.inabe.mie.jp/>



A scenic photograph of a town in Japan, likely Iwate, with mountains in the background. A semi-transparent grey rectangle is overlaid on the center of the image, containing a white map of Japan. The map highlights Iwate Prefecture in orange. The text "いなべブランド" and "since 2005" is written in black over the map.

いなべブランド
since 2005